がんセンターだより

Tochigi Cancer Center Dayori

地方独立行政法人
栃木県立がんセンター

Philosophy - Art - Humanity
TCC
Founded in 1986

1月号
2020

p1 年頭所感

p2 頭頸科のご案内

p3 アジアにおける内視鏡診療の均てん化を目指して
～ ベトナムでの技術指導報告 ～

p4 禁煙支援専門医がつぶやきます きんえんSwitter

p5・6 がんゲノム医療への取組みについて

vol. 14

年頭所感

地方独立行政法人栃木県立がんセンター
理事長 兼 センター長
菱沼　正一

明けましておめでとうございます。新年にあたり、ご挨拶申し上げます。

2020年が始まり、今年は十二支の最初である子年で、「庚子（かのえ・ね）」に当たります。庚も子も「継承」「変化」の意味があり、次の波をつくり始める年だそうです。

昨年は、ほぼ200年ぶりの天皇退位による皇位継承により新天皇陛下がご即位され、「令和」という新しい時代がスタートしました。そして、今年は、半世紀を経て日本に再びやってくるオリンピック・パラリンピックの年であります。未来への躍動感があふれている本年、当センターにおいても、地方独立行政法人へ経営形態を変え5年目となる節目を迎える重要な年であり、これまでの継承と次につなげる変化が求められる１年とすべく、身の引き締まる思いでおります。

医療機関を取り巻く環境は、診療報酬の大改定が行われ、地域包括ケアシステムの構築、医療と介護の連携強化、急性期から回復期、慢性期、在宅医療までの医療機能の分化・連携の推進など、日々刻々と変化しており、超高齢社会を迎え、人生100年時代を見据えた豊かな人生を享受できる社会の実現が求められています。

栃木県立がんセンターは県内唯一のがん専門病院として、全てのがんのステージと病態に応じた適切な治療とケアを提供できる診療体制をさらに充実させて参ります。標準治療はもちろんのこと、難治性がんの治療、進行がんに対する集学的治療、がんゲノム医療等々、がんセンターならではの質の高い医療の提供に積極的に取り組み、先進的・専門的がん診療を進め、地域の医療機関との連携を密にし、県内のがん医療の水準向上に貢献して参ります。

本年2月には待望の頭頸科常勤医師を迎え入れ、数年ぶりに同科の入院診療を再開する運びとなりました。また、新年度の4月には泌尿器科、腫瘍内科、精神腫瘍科の常勤医師も赴任し、すべての診療科において入院治療が可能となります。さらに骨軟部腫瘍・整形外科をはじめ、複数の科で常勤医師を増員し、診療体制の強化を図ります。

県民の皆さまが一番頼りにし、安心して医療を受けられる「選ばれる病院」になるために、当センター職員一同邁進していく所存であります。

皆さまのこの１年のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、また、当センターへのご指導とご鞭撻を心より、重ねて、お願い申し上げて、新年の挨拶に代えさせていただきます。

頭頸科のご案内

ご挨拶

この度、栃木県立がんセンター頭頸科に着任いたします横島 一彦（よこしま かずひこ）と申します。

平成元年に日本医科大学を卒業して以来、頭頸部癌診療を行ってまいりました。その間に得た知識と経験をもとに、栃木県での頭頸部癌診療の充実に貢献したいと考えています。

当センターの頭頸科は暫くの間、外来診療のみを継続する状態が続いておりましたが、2020年4月より本格的に再開することになります。まずは2名の耳鼻咽喉科医でスタートし、徐々により充実した体制にしていきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

頭頸科　横島 一彦

◆日本医科大学大学院　卒

◇資格・免許

・日本耳鼻咽喉科学会専門医
・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修指導医
・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医
・日本頭頸部外科学会　頭頸部がん指導医

頭頸部癌の特徴

頭頸部癌は全癌のわずか5～10%を占めるに過ぎないマイナーな癌ですが、その疾患群の中に特徴の異なる多くの癌種を含んでいます。ヒトが人間らしく生きるための咀嚼・嚥下・発声機能が脅かされることが多い疾患であることから、生命予後とQOLとのバランスを考えた上で治療方針を決定する必要があります。我々は正確な診断と十分な説明の上での治療方針の決定、質の高い手術、化学放射線療法の際の支持療法の徹底を行ってまいります。

咽喉頭・口腔癌は、喫煙や多量の飲酒、口腔衛生不良が原因/誘因であるため、脳血管疾患、心疾患が併存することが多くあります。また、重複癌の危険性が高いことの原因にもなっています。そのため、治療にはチーム医療、院内連携が不可欠です。手術療法では主に形成外科、消化器外科、歯科口腔外科や手術室スタッフと、化学放射線療法では放射線科や化学療法スタッフとOne Teamで治療に当たる必要があります。各科との連携を大切にして質の高い診療に結び付け、医師だけではなく看護スタッフやコメディカルスタッフの協力のもと、最良のがん医療を実践したいと考えています。また、近隣の医院、病院との連携も欠かせないものと考えており、患者さんに優しい診療は適切な早期発見・診断から始まるので、地域の勉強会等に積極的に参画し、連携を密にしていきたいと思っています。

大学病院にはない、がん専門病院ならではのSeamlessな癌治療に期待するとともに、頭頸科の責任の大きさも認識しています。質の高い医療の推進、患者さんの視点に立った医療の提供に向け、頑張ってまいりますので宜しくお願いいたします。

アジアにおける内視鏡診療の均てん化を目指して
～ ベトナムでの技術指導報告 ～

内視鏡センター長　　小林　望

昨年6月14日、15日の2日間、消化器内視鏡に関する技術指導のため、ベトナムに行く機会をいただきました。アジアにおいて内視鏡診療の啓蒙活動を行っているANBIIG（Asian Novel Bio-Imaging and Intervention Group：香港にあるNGO）とベトナム内視鏡学会からの依頼で、ハノイから車で30分程度のバクニンという町で開催されるワークショップに講師として招待されました。

私とシンガポールから来たViknes先生の2名で、50名近い受講者に対して1日半指導をするというハードな内容で、大腸を担当した私は、講演を5つ、検査の実演、動物臓器を使った内視鏡治療の実技指導など、限りある英語力を総動員して、できる限りのことを指導させていただきました。ベトナム内視鏡学会の理事長にもご参加頂き、また地元のテレビ局の取材も入るなどちょっとしたお祭り騒ぎで、1日目終了後の懇親会では、会場となった病院のスタッフがきれいな衣装を着てプロ顔負けの歌や踊りを披露し、大変な盛り上がりでした（当センターの忘年会の出し物とは、レベルが違いました…）。

日本の内視鏡技術は世界一だと言われており、参加者からはそれを少しでも習いたいという意欲が感じられ、指導する側も大変刺激になりました。歴史的にアメリカよりもロシアとの結びつきが強かったことから英語が理解できる医師が少なく、講演は私の英語をベトナム語に通訳する形式で行われたため、言いたいことがどの程度伝わったか心配でしたが、ワークショップの最初と最後に行ったテストでは成績の向上が見られ、ホッと胸をなでおろしました。

2016年のホーチミン以来2度目のベトナムでのワークショップでしたが、みなさん親切で礼儀正しく、また食事も健康的でおいしく、大変充実した楽しい時間でした。また、他の国の医療に触れることにより日本の医療を見直すいい機会にもなり、自分の見識を少しだけ広めることができた気がしました。

禁煙支援専門医がつぶやきます

きんえん Switter

「法律が改正されても・・・」

神山 由香理（禁煙指導科）

健康増進法の一部が改正され、昨年７月１日から行政機関の庁舎や学校、病院などの敷地内が原則禁煙となりました。健康増進法の条文には、「国民は…生涯にわたって…健康の増進に努めなければならない」と書かれてあります。健康でいることは私たち国民の義務であり、自治体や医療機関などはそれに協力しなければならないと法律で定められているのです。今回の改正では受動喫煙対策が強化され、本年４月に全面施行となれば、飲食店や職場などが原則屋内禁煙となります。

喫煙防止教室では、子供たちから受動喫煙について質問されることがよくあります。小学５年生からの質問と、それに対する私のお返事を紹介しましょう。

≪質問≫

マスクをしていても、タバコのけむりを吸ってしまいますか？私たちはタバコのけむりを吸わないコツみたいなのはありますか？

≪お返事≫

あなたのまわりに、タバコを吸う人がいるのですね？授業でタバコのことをくわしく勉強して、心配になってしまいましたか？タバコは毒ガスです。ふつうのマスクをしただけでは、ガスを吸ってしまうことになります。けいさつ官や消防隊の人が使うような特別なガスマスクでないと、タバコのけむりから自分を守ることはできません。「タバコを吸っている人の近くには行かない」、「自分たちの前では吸わないようにおねがいをする」など、心がけましょう。

さて、法律が改正されて全面施行されれば、みなが安心して生活できる世の中になるのでしょうか？

実は、中央省庁や都道府県の本庁舎の敷地内を全面禁煙にしたのは２省（国土交通省と文部科学省）、10都道府県にとどまっています（青森、岩手、山形、茨城、東京、佐賀、沖縄）（秋田、滋賀、大阪は以前から全面禁煙）。栃木県内で本庁舎敷地内を全面禁煙にした自治体は、なんと鹿沼市と日光市のみです。ご存知でしたか？

東京でのオリンピック開催は、国内のタバコ対策を大きく推進させ、世界水準にまで引き上げるラストチャンスかもしれません。しかし、オリンピック開催までおよそ半年となったいま、依然、このような現状にあることを、まずは十分認識しましょう。そして考えましょう。医療に携わるプロフェッショナルである私たちが、今すべきことは何かを。

禁煙ヒーロー参上！

がんゲノム医療への取組みについて

ゲノムセンター長　菅野 康吉

第３期がん対策推進基本計画（平成30年３月９日閣議決定）では、分野別施策2.がん医療の充実として（1）がんゲノム医療という言葉がトップに掲げられています。厚生労働省は平成30年２月16日付けで全国に11カ所のがんゲノム医療中核拠点病院を指定し、栃木県立がんセンターは平成30年10月１日付けで中核拠点病院と連携するがんゲノム医療連携病院に指定されました。

がんは遺伝子の異常により生じる疾患であり、遺伝子検査はがんの診断、治療、予防の対策を考えるための有用な情報源となります。がん細胞は特定の経路の遺伝子の活性化によって増殖や進展する場合があり、このような異常をがん遺伝子依存性（Oncogene addiction）と呼んでいます。依存性を生じている遺伝子の働きを抑制する薬物を投与すれば、がんの増殖を制御することができるため、基礎研究で新薬の開発が進められています。新薬の臨床応用には多数の臨床例を対象とする臨床試験が不可欠ですが、稀な遺伝子の異常を持つがんを多数例集めてその効果を確認することは非常に困難な作業でした。

そこで、がんゲノム医療では、現行の保険診療制度の中で有効性の期待される薬剤を患者に届けるための新しい組織が整備されました（図）。まず、標準的治療が終了、または終了する見込みの患者さんが指定の医療機関（日本全国の11カ所のがんゲノム医療中核拠点病院、34カ所のがんゲノム医療拠点病院、122カ所のがんゲノム医療連携病院）を受診し、がんゲノムプロファイリング検査という数百種類の遺伝子を一度に調べる遺伝子検査を受けます。検査会社を経て、検査結果ががんゲノム情報管理センター（C-CAT）という組織に患者さんの診療情報とともに送付されます。C-CATに集められている遺伝子異常の情報と、臨床情報に基づき、有効な分子標的薬や登録可能な臨床試験の有無等の調査結果が中核拠点病院に送られます。中核拠点病院ではC-CAT調査結果に基づき、各臓器のがん専門医、腫瘍内科医、病理医、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、臨床検査技師、薬剤師、看護師、連携病院の担当医等の多職種が参加するWeb上のカンファレンス（エキスパートパネル）が開催され、最終的な報告書が患者さんに届けられます。

遺伝子検査の調査結果が統一されたフォーマットで全国に届けられることで、100人に１人しか見つからない遺伝子異常も、１万人調べれば100人に見つかるというスケールメリットが生まれ、臨床試験に参加することで必要な薬がタイムリーに患者さんに届く効果が期待されます。１億3000万人が加入する国民皆保険制度の国で、がんゲノム医療を活用する遠大な取り組みがまさに始まったところなのです。

栃木県立がんセンターでは、がんゲノム医療を実行するための事業系組織として「ゲ

ノムセンター」を開設しました。ゲノムセンターでは、がん組織で後天的に生じた遺伝子異常(体細胞変異)と生まれつきの遺伝子異常(生殖細胞系列変異)の両方の遺伝子異常を検査の対象としています。遺伝子検査により分子標的薬を用いた最適な治療の適応を決定し、遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)やLynch症候群等の遺伝性腫瘍が疑われる場合には、遺伝カウンセリングと遺伝学的検査を実施し、血縁者の将来の発症リスクの推定と適切ながん予防対策を提供します。遺伝性腫瘍については、1999年に開設された遺伝相談外来(現がん予防・遺伝カウンセリング外来)をゲノムセンターの診療科に位置付け、毎週火曜日午前と水曜日午後の二枠で外来を実施しています。併せて、がんの治療方針決定のための遺伝子検査を実施する外来としてゲノムセンター外来を水曜日の午前枠で実施しています。開設以来の受診者数と実施した遺伝子検査の例数を示します(表)。また、がんゲノム医療連携病院として昨年までは慶應義塾大学病院および国立がん研究センター中央病院の二カ所の中核拠点病院と連携していましたが、連携病院の再編により今年から国立がん研究センター中央病院と連携しています。

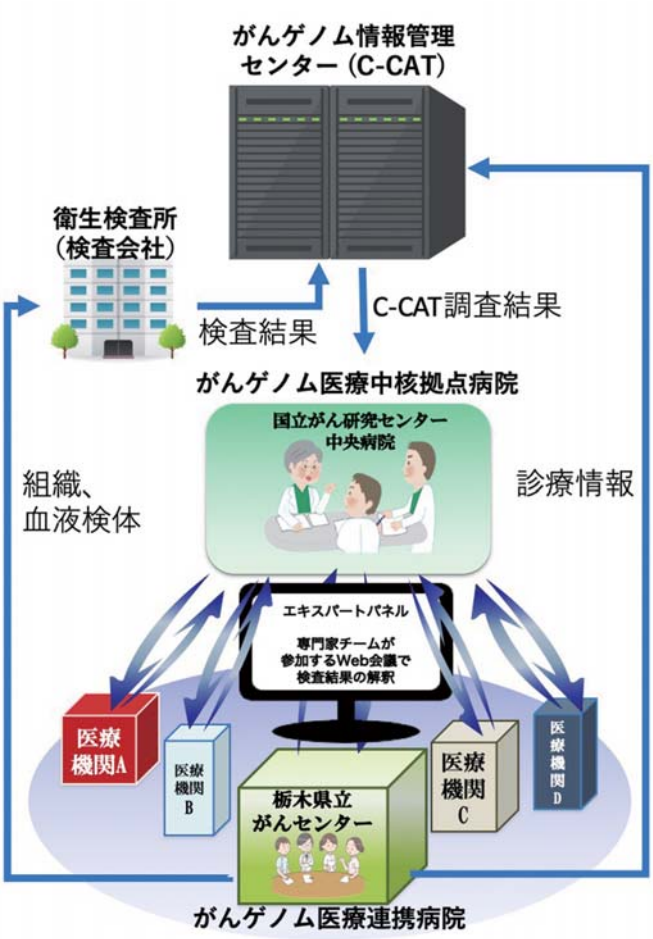

表. ゲノムセンターの外来受診者と実施した遺伝子検査の集計

	H30年4月～H31年3月	H31年4月～R1年12月
ゲノムセンター外来受診者数	33名	165名
(1) ＭＳＩ-CDx検査	32件	78件
(2) BRACAnalysis診断システム	14件	31件
(3) ＮＣＣオンコパネル	0件	34件
がん予防・遺伝カウンセリング外来受診者数	169家系	189家系
(1) Vistaseq	5件	16件
(2) BRCA1/2遺伝子検査	4件	6件
(3) 研究として実施した遺伝学的検査	49件	53件

栃木県立がんセンター　予約窓口のご案内

ご紹介、ご予約をありがとうございます。
当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約を心がけております。

ご予約はすべて下記までご連絡下さい。

予約センター（直通）

028－658－5012

（受付時間：平日 8:30～16:30）

※予約枠に制限があり、ご希望に添えないことがあります。
予めご了承ください。

受診当日、患者さんにお持ちいただくもの

- 保険証、各種医療証
- 診療情報提供書（紹介状）
- 各種検査結果、画像データ（お持ちの方）
- お薬手帳（お持ちの方）
- 当センターの診察券（お持ちの方）

交通のご案内

ＪＲ宇都宮線

●ＪＲ宇都宮駅西口から関東バス「江曽島行」で「県立がんセンター前」下車。
徒歩1分（乗車時間約25分）

東武宇都宮線

●江曽島駅東口から関東バス「ＪＲ宇都宮駅行」で「県立がんセンター前」下車。
徒歩1分（乗車時間約5分）

東北自動車道

●鹿沼インターチェンジから宇都宮方面へ向かい、滝谷町交差点を右折南進し、ＪＲ陸橋を越え３つ目の信号を左折（約9.4km）

●鹿沼インターチェンジから宇都宮方面へ向かい、宮環鶴田陸橋を右折。下砥上アンダーに入ってすぐ江曽島方面へ左折し７つ目の信号を左折（約8.2km）

※セカンドオピニオン外来（平日午後）

	月	火	水	木	金
消　化　器	清水秀昭（主に食道）	菱沼正一（第2週のみ、主に胆・膵）	菱沼正一（主に胆・膵）尾澤　巌（主に肝）	藤田　伸（主に大腸）	尾澤　巌（主に肝）
婦　人　科	関口　勲				

※セカンドオピニオン外来（土曜日午前）

	2月1日(第1土曜日)	2月8日(第2土曜日)	2月15日(第3土曜日)	2月22日(第4土曜日)
消　化　器（食道・胃）	林　雅人	―	藤田　剛	松下　尚之
消　化　器（肝胆膵）	富川　盛啓	白川　博文	白川　博文	尾澤　巌
消　化　器（大　腸）	藤田　伸	藤田　伸	藤田　伸	藤田　伸
呼　吸　器	中村　洋一	中原　理恵	笠井　尚	松隈　治久
乳　　腺	安藤　二郎	北村　東介	安藤　二郎	北村　東介

※予告なく変更となる場合があります

初診・再診ともに予約制です

予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。

●予約センター
TEL　028-658-5012(直通)
平日　AM 8:30～PM 4:30

がんに関するご相談
●がん相談支援センター
TEL　028-658-6484(直通)
平日　AM 8:30～PM 5:00

医療機関からの病診連携に関するお問い合わせ
●地域連携センター
TEL　028-611-5503(直通)
平日　AM 8:30～PM 5:15

がんセンターだより Tochigi Cancer Center Dayori vol. 14
1月号
令和2年(2020)1月15日発行
発行　地方独立行政法人栃木県立がんセンター
広報広聴センター
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
TEL. 028-658-5151(代)　FAX. 028-658-5669

がんセンターの情報は
栃木県　がん　検索
URL　http://www.tochigi-cc.jp